

【議事録】概要

会議名	芦屋町地方創生推進委員会（第3回）		会場	芦屋町役場 41 会議室		
日時	平成 27 年 10 月 22 日（火） 19:00～21:00					
件名・議題	<p>1) 産業観光・雇用創出分野における意見交換について</p> <p>2) その他</p>					
	会 長	内田 晃	出	副会長	吉岡 学	出
		新郷 綾子	出		宮崎 大樹	出
		山木 善文	出		中西 智昭	出
		山村 朋代	出		松本 健吾	出
		内海 猛年	出		貝掛 俊之	出
合意・決定事項						

平成 27 年度 芦屋町地方創生推進委員会（第 3 回）議事録

1 ワークショップ（産業観光・雇用創出分野）

本日の会議の流れについて、事務局より説明を行う。

（事務局）

○第 1 回会議及び第 2 回会議では、「地域づくり・定住・子育て部会」・「産業観光・雇用創出部会」の 2 部会に分かれて、総合戦略にのせる取り組みについて議論を行った。その中で、「産業観光・雇用創出部会」の整理ができていなかったため、本日の会議で 2 部会合同で意見交換を行う。

（会 長）

前回会議で、別グループだった皆さまにもご意見をどんどん出していただきたい。

（委 員）

「産業観光・雇用創出」に関する切り口について、全員で考えを共有したい。そもそも地方創生は人口減をくい止めることが大きな目的だと思う。人口減が進むと町の存続ができない、そのためには人が集まってこなければならない。

「地域づくり・定住・子育て部会」は、どちらかといえば内向きの話し。「産業観光・雇用創出部会」は外から人を呼び込むという話し。「産業観光・雇用創出部会」で出された意見・提案の中に内向きの話は 1 つか 2 つしかない。切り口を町内者と町外者にするのであれば、もう限界なのでは。それならば、外から呼び込むために徹底的にやるという考えもある。人材育成の話しに関しては、「地域づくり・定住・子育て部会」でも出ていて、子ども観光大使・芦屋自慢一人ひとつプロジェクトというものがあがっている。その辺りと重複してくる。なので、外向けに誇れるものを考えたほうがいいと思う。

（委 員）

私もそう思う。芦屋町の現状を考えると、土地も狭い。雇用ということに固執すると企業を誘致して、サラリーマンに住み着いてもらおうと考えがち。芦屋町にとって現実問題として可能かどうか。芦屋町での雇用創出を考えた場合、海の駅でのパート等で限界では。やはり、観光に力をいれ、芦屋町の交流人口を増やすことによって、経済効果のパイを大きくした中での雇用の創出が、芦屋町では現実的な気がする。だから観光で交流人口を増やすという施策に集中したほうが、話しがまとまると思う。

(委員)

確かにボート場や自衛隊については来場者数の増加なら分るが、雇用の増加となればどうなのかなど。そこの棲み分けをしないと。

(委員)

自衛隊もボートレース場も海と一緒に、芦屋町に訪れるきっかけでしかない。芦屋に来て芦屋釜の里に行って、海に行って、一日で終わらないので、また来ようという気にさせるためのコンテンツである。ボート場で増やすというよりは、人が来てくれるために、どう活用するのかという考えを出していきたい。

(委員)

ボートレース場でいえば、大きなレースがあった時に、遠方からも人が来るので、そういう人たちに向けて、芦屋にお金をおとしてもらうために何をするのか。宿泊、食事などでつなげていって芦屋に滞在してもらうことが大事。町内が盛り上がり、各事業者が雇用を生み出していく形のほうが、新たな雇用を創出するよりも手堅い気がする。

(委員)

スポーツ、食べ物、景観、歴史、これらは観光の資源ですよね。これらをどのように工夫すれば雇用に結びつくのかという視点が大切だと思う。誘致することはいいが、どのように雇用にむすびつけるかの発想が大事。

(委員)

観光ですよね。歴史をみにきてもらう。いい景観をみにきてもらう。美味しいものを食べにきてもらう。要するに雇用の前に人が来てもらうこと。人が外に逃げていかないようにするには、芦屋に誇りを持ってもらわなければならない。それだけの魅力ある町なのかということ。魅力ある町にするために何をすべきかという議論になるべき。

(委員)

観光でみたときに、プールに遊びにきた人が、帰りにどこかに寄って食べて帰っているか。芦屋釜をみにきた人が他にどこかいているか。長く回遊することによって、消費金額が多くなり、最終的に雇用につながるのかなど。そこをつなぐものが何なのか。

(事務局)

必ずしも雇用につなげる必要はない。皆さんがおっしゃられているように、人が集まることで、それが自然と雇用につながる。要するに、人を集めるためにどうしたらいいかという議論をしていただければ。

(委員)

どうしたら継続的に集まってもらえるか。

(委員)

回遊時間を長くするためには、駐車場が必要。車を停めるところがないから、すぐに帰るということもあると思う。各店舗も土地がないから駐車場を確保できていない。

(委員)

皆さんが一番手堅く求めてくるのは食だと思う。観光で来られた方に対しては、飲食店で各地へ案内するなど回遊性は高められると思う。ただ細かい情報を知らなければPRもできない。これまでは、芦屋町全体が情報発信が下手だったのかなと。町内者が町内のことを知っておかないと、PRできない。それが一番早く、簡単で、ダイレクトに響く方法だと思う。町内者がどれだけ情報を広げられるか、そのような人材が必要。

(委員)

情報を広げるということであれば、人が集まってくる場所を利用しなければならない。例えば、ボートレース場は色々な人が集まる。そういう意味で、大型ビジョンを使って町内をPR等ができれば、ボートに来た人がどこかに寄って帰るということもあるのでは。

(委員)

パブリックビューイングの案はワークショップで。ボート場をギャンブルするところという場所だけでなく、別の用途で活用できたら、新たな人を呼び込むことができ、イメージも変わっていくのでは。

(委員)

ネタはたくさん出ているので、後は整理ができれば。

(委員)

きっかけづくりは、情報発信。情報発信の強化が必要。

(委員)

困っている人たちに対して支援してあげることができれば。芦屋町を訪れるきっかけは人それぞれ。それを満たしてあげることが出来れば自然と回遊するのかなと。そのために、いかに情報を共有して、まとまった情報を必要なひとに流すことができるか。現状では、行政、観光協会、商工会で情報がバラバラなので知らないことが多い。

(委員)

人が集まる場所にQRコードをはって、そこから回遊できるようにすれば、役場にきてもらったり、観光協会にきてもらう必要はない。わざわざHPを見てもらう必要はない。それを動かす情報発信主体はやはり必要。

(委員)

誰もが情報端末機器を使いこなせるわけではないので、案内板の整備も必要。
芦屋釜のような町外から集まるような場所でも整備が足りていない。
また、一日町内を案内してくれる方、おもてなしをしてくれる方を育成するというのもいいのでは。お年寄りの活躍の場としても使える。今は機能が停止しているが、以前観光協会でもやっていた。

(委員)

レクリエーション施設が必要。夏井ヶ浜周辺にもあっていいかなと。海に来るメリットがでてる。海のない内陸の人をターゲットにできる。
また、資源がたくさんあるので、体験してもらうことが人材育成にもいいかと思う。
芦屋釜の里で、お茶の作法や鋳物体験など。海でもシュノーケリング体験など。
自衛隊内を活用してもマニアックな人が集まると思う。

(事務局)

体験事業でいえば、広域連携事業でメニューづくりを行っており、今後実施していく予定である。これらと連携できれば、広がっていくと思う。

(事務局)

事業や取組みのネタとしては、かなり提案していただいた。これをもとに、事務局にて国の総合戦略の基本目標である、「基本目標① 地方における安定した雇用を創出する」、「基本目標② 地方への新しいひとの流れをつくる」、「基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「基本目標④ 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」に分類して、事業を落とし込む。
次回会議では、完成型に近い素案をお示しするので、再度審議いただきたい。